

2003 . 7

白石区民のページ page

白石区インターネットホームページ
<http://www.city.sapporo.jp/shiroishi/>
白石区民公式サイト「shiroishi.org」
<http://www.shiroishi.org/>

日本の技術を学ぼうと、海外から多くの研修員が訪れるJICA北海道国際センター（札幌）。ここでは、研修員に日本文化に親しんでもらおうと、着付け、茶道、折り紙、空手など、さまざまな教室が開催されている。織田さんは、その中の一つである書道教室のボランティア講師を、二年ほど前から務めている。

生まれは上砂川だが、在職中は本州に住み、海外出張が多かったという織田さん。定年後に肺炎を患い、退職後、空気の良い北海道に戻って来た。「何か目的がなければ病に負ける」。そう思い、ボランティア活動を決意。さらに、「どうせやるなら、何かの技術を身に付けて海外の人に英語で教えたい」と、通信教育で書道を学び始めた。在職中、幾度となく自分を助けてくれた世界各地の人々に少しでも恩返しをしたいという思いが、それを後押しした。

書道教室で使う言葉はすべて英語。数名のボランティアの協力の下、年四回行われる一人一人に配るお手本をはじめ、英語で書かれた解説書、記念にプレゼントする色紙など、すべて織田さんの手作りだ。「森に木がたくさんあるように、『木』が集まって『森』という文字になる」。その説明に、外国人たちは大きくうなずく。このように織田さんは、筆使いだけでなく、

ボランティアも研修員も笑顔でわいわい楽しむ。そんな教室の雰囲気大好きなんです。

JICA北海道国際センター（札幌）
書道教室ボランティア講師

おのた けんいち
織田 憲一さん（七〇）

（栄通三丁目在住）



今月の人

「その漢字のルーツについても知ってほしい」と、イラストや写真を使いながら丁寧に解説する。一通り説明が終わると、慣れない手つきで戸惑いながら筆を握る研修員に気さくに声を掛ける。「書き順が違ったり、かすれた部分に絵の具のように墨を塗ったり、とにかく発想がユニーク。私自身も研修員と一緒にわいわい楽しんでいるんですよ」

活動を始めてからは病気に悩まされることもなく、「気持ち強く持てるようになった」と力強く話す織田さん。外国人に書道を教えることに小柄な体で全力投球する姿は、自分自身のみならず、周りの人までも元気づけている。

編集 白石区役所総務企画課広聴係
☎003-8612
札幌市白石区本郷通3丁目北1-1
☎861-2400 内線224
FAX860-5236